

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
あきだわら どんとこい	約7.3ha	654kg/10a	166kg/10a(488kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 本人及び通年雇用1名、繁忙期に臨時雇用1名
- 水稻単作
- 令和元年から通年雇用し後継者と考えている。
- 離農等により耕作されなくなった農地を請け負い規模拡大。

【作付品目】

- 主食用米
コシヒカリ、みえのえみ等 21.3ha
- 飼料用米
あきだわら、どんとこい 7.3ha

【取組のきっかけ】

- 当地域のほ場は湿田で麦・大豆への転作には適していないため、飼料用米に取り組みたいと考え、旧知の養鶏業者に打診したところ受入要望があり、10年程前から取り組んでいる。

【取組概要】

- 30年～40年前から土づくりに取り組み、稲わらのすき込みと堆肥(鶏ふん:600kg/10a)の投入で、年々地力が上がり収量の増加につながっている。年内に堆肥を投入することが重要と考えている。
- プール育苗を行い、施肥については、多収品種専用一発(成分25-6-6)を20kg/10a、田植同時側条施肥を行い省力化・コスト低減を図っている。
- ほ場の見回り時には周辺一帯の生育状況も観察し、いもち病の発生の兆しがあれば早めに防除を実施する等の栽培管理を徹底している。なお、カメムシ防除は令和2年からドローンを導入。
- 主食用米の収穫後に飼料用米の収穫を行うことでコンタミの防止に努めている。

